

# ひとの動き (敬称略)

6月11日(金)～7月10日(土)

birth **お誕生おめでとう**

| 住所  | 氏名     | 性別 | 保護者  |
|-----|--------|----|------|
| 仁田子 | 西本 昇陽  | 男  | 一 崇  |
| 東寒野 | 淵上 大雅  | 男  | 孝 史博 |
| 仁田子 | 山下 颯馬  | 男  | 智 博聖 |
| 東寒野 | 北岡 唯花  | 女  | 孝 聖徳 |
| 下横田 | 幡野 颯来  | 男  | 康 徳和 |
| 府 領 | 野々口 輝人 | 男  | 英 和  |

marriage **ご結婚おめでとう**

| 住所      | 氏名         |
|---------|------------|
| 〔 夫 妻 〕 | 益城町 向山 昌利  |
| 〔 夫 妻 〕 | 田 口 吉岡木 綿子 |
| 〔 夫 妻 〕 | 横 田 島田 勝豪  |
| 〔 夫 妻 〕 | 熊本市 村上 由紀  |
| 〔 夫 妻 〕 | 田 口 坂口 隆喜  |
| 〔 夫 妻 〕 | 熊本市 永田 勝美  |

condolence **お悔やみ申し上げます**

| 住所  | 氏名    | 年齢 | 世帯主 |
|-----|-------|----|-----|
| 吉 田 | 作本フサエ | 87 | 耕一郎 |
| 上早川 | 海讀 初喜 | 88 | 道 子 |
| 田 口 | 上野ヨシ子 | 88 | 公 明 |
| 下横田 | 北畑シズエ | 93 | シズエ |
| 田 口 | 田上 君子 | 73 | 文 勝 |
| 早 川 | 山下 洋一 | 55 | ヒサ子 |
| 船 津 | 井上マサエ | 91 | マサエ |
| 芝 原 | 藤田ヤエコ | 91 | ヤエコ |
| 下横田 | 和田志おり | 49 | 拓 也 |
| 岩 下 | 向山 敏男 | 96 | 敏 男 |
| 岩 下 | 高木マキエ | 77 | 正 明 |
| 早 川 | 福田 高一 | 87 | 近   |
| 上早川 | 藤本ケサエ | 80 | ケサエ |

Data **甲佐町の人口・世帯数**

| 項目  | 数      | 増減 |
|-----|--------|----|
| 男   | 5,381  | 9  |
| 女   | 6,145  | 1  |
| 計   | 11,526 | 10 |
| 世帯数 | 4,171  | 1  |

平成22年6月30日現在

〔町史編さんだより〕

布田川・日奈久断層は、阿蘇山より西側で九州の中央部を横断する「大分・熊本構造線」にほぼ一致すると考えられている重要な断層です。阿蘇火山西麓の西原村から南西に延び、益城町の砥川付近で北北東―南南西に方向を変え、甲佐町を通過して八代へ抜けています。砥川以北の部分を「布田川断層」、以南を「日奈久断層」と呼んでいます。

県道白旗 - 御船線沿いの断層崖 (山出神社付近)



八代平野南部で日奈久断層は白杵・八代構造線(日本全体から見ると「中央構造線」と一致しています。この一連の断層は全長約101kmあり、国によって定められた活動度で言うとB級(1000年あたりの変異量が1m未満、0・1m以上と見積もられるもの)とされ

れています。ちなみに、A級は1m以上10m未満のもの、C級は0・01m以上0・1m未満のもので、この断層は、益城町から南下して御船町の高木地区付近を通り、甲佐町では白旗山の西側の県道「白旗、御船線」にほぼ沿っています。この道路の東側は古い時代の地層からなる丘陵地となっており、その西側は低地になっており、とくにこの付近ではその境界としての断層崖が明瞭です。そこから南西へ、緑川を渡るとまた地形が不明

## 甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(23)～

### 布田川―日奈久断層について

町史編集委員 池辺 伸一郎 (自然環境)

瞭となつてよくわからないのですが、城南町の土鹿野地区に抜けるようです。

このように、甲佐町の北西部で熊本でも第1級の活断層が走っており、このことは今すぐに危険性があるとは言うことではありませんので心配は要りませんが、そういう事実があるということは頭に入れておいた方が良さそうです。

なお、政府の地震調査委員会では、甲佐町から田浦町までの地域の断層が動いた場合を評価し、その結果、今後30年以内の地震発生確率予測として、最大約6割とされています。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先  
町社会教育課町史編集係  
☎096・234・3310

## 編集後記

人間は、右肩上がりの時代には、常に「新しいことを身に付けること」で、自分の「質」が高まると考えるものです。

しかし、成熟した状態になると、「新しいことを身に付けること」が、必ずしも「質」を高めることと同義にはならないもの。いかに、成熟した「質」を磨くかという新しいアプローチを発見することが重要です。

特集でご紹介した転倒予防体操の取り組みで、参加者が強く意識されていることは、「いかに、今の自分ができることを維持していくか」という、自身の「質」を磨くこと。元氣だったころとは異なるアプローチで、自分自身と向き合われています。同じく、成熟している現在の日本社会。「質」に対する2つのアプローチを意識した取り組みができるかが、今後の再生のかぎとなるでしょう。(C)